

今秋も飯岡沖に中大ダイ来遊 魚礁攻めは根ズレ対策が決め手

九十九里飯岡港出船
撮影・本誌編集部



★当日最大は1.4キロにとどまったが、同船では翌日以降2～4キロ級がコンスタントに釣れている



▲エサは7～9センチの生きエビ、10匹分が料金に含まれる
◀追加の生きエビは10匹1000円



◀魚礁周りはイワンなどベイトの反応がビッシリ

●釣りは水深30メートル前後に点在する魚礁周り



▲早朝のトワイライトタイムに500～800グラム級が入れ食い
◀だれでもうれしい船中1号



▲ベテランはキャストで広く探り数をのばした



▲トップ9枚が2名



▲遊動テンヤで連続キャッチ
◀エサが豊富なのか身の厚い個体が多い



▲フールでヒット
◀小型は抜き上げてしまおう



▲カサゴも交じった



●魚礁周りは底から5メートルくらいを探る



▼マハタの最大は1.5キロ



▲▼1キロ前後のマハタが船中10尾以上釣れた



▲魚礁周りの真本命!?

▲ダイレクトな引き味がこの釣りの魅力



◀▲良型のハナダイも上がった

口を頭にトップ9枚とまずまず。魚礁周りの中大ダイ攻略は根ズレ対策が重要。掛けた魚をできるだけ走らせないために、この時期に限ってはPE1号、ハリス4号とワンランク太いラインシステムを使い、きつめにドラグを調節して勝負しよう。(詳細は54ページ参照)

各地で一つテンヤマダイが盛り上がる秋。ここ九十九里飯岡エリアでは、数年前から9～10月ごろに中大ダイの群れが来遊する傾向があり、今年も2～4キロ級が数多く上がっている。中大ダイのポイントには飯岡沖の浅場から深場まで無数に点在する魚礁周りが中心。幸丸での取材日は水深30メートル前後の魚礁周りを狙い、ハリス切れで釣り人が天を仰ぐ場面が頻発し中大ダイこそ上がらなかったものの、1.4キ



●九十九里飯岡港・幸丸 向後 直樹船長